

# 山形県石油セミナー

## 機器メーカーがアピール



出展ブースの様子

石油連盟が主催する山形県石油セミナーで石油暖房機のメリットと石油給湯器について紹介された。従来型の石油給湯器を高効率石油給湯器工コフィールに変えることで省エネ効率とともに灯油の

節約、CO<sub>2</sub>排出量の削減につながることが説明された。会場にはコロナやダイニチ工業など7社の石油機器メーカーが展出しており、参加者に自社の製品のアピールをした。

日本ガス石油機器

工業会はセミナー内で山形県は昨年石油給湯器の出荷台数が二チ工業など7社のガス給湯器を上回り、石油給湯器の大きな市場であることを強調した。

長府製作所は温水ルームヒーターを展示。室内機と室外機それこれが他の社製品と互換性があり「生産終了した富士通製品の室内機もしくは室外機が故障しても壊れた方のみ交換ができるのが強み」と述べた。ゼロスペックはセンサーにより灯油タンクの残量を可視化できるスマートセンサーを出した。灯油タンクのキャップ

で、顧客ごとの灯油の残量を可視化できるようになる。残量を把握することで、タンク内に灯油が充分にある状態で配送に行き、あまり給油できることを防ぎ、従業員の配送の効率アップにつなげることができ。ブースの担当者は「タンク内の残量を可視化して管理することでみなさまに新しい価値を提供したい。従業員の配達効率が上昇することでも、灯油は売つても“油を売る”時間のロスはなくなる。少ない人数でも効率よく配達にまわれるようになり、入手不足の解消にもつながる」と製品の紹介をした。

そのほかにも各社のエコフィールや石油ヒーター、温水ヒーターなどが展示され、参加者が説明を聞いた。